

保育総合研究会広報誌 NO. 63

発行所： 保育総合研究会事務局 H27・12・25
茨城県東茨城郡茨城町上飯沼1276-1 飯沼保育園内
TEL029-292-6868 FAX 029-292-3831
発行人： 会長 梶 沢 幸 苗



平成27年11月5日(木)午後1時から、アルカディア市ヶ谷私学会館において第53回定例会が行われた。

報告

13:35~14:10
〈2015環太平洋乳幼児教育学会ポスター発表〉
〈発表者〉鬼塚和則、永田久史、遠藤浩平



社会福祉法人日本保育協会保育科学研究所、2014年度補助研究事業として、多重知能と保育士の観察力の向上についてのポスター発表の報告が行われた。

説明

14:20~14:50
〈なぜ今、非認知能力が注目を浴びているのか〉
〈説明者〉当会副会長 坂崎隆浩



講演前に坂崎副会長から非認知能力について、文字・数などの認知的能力と共に、思考力・探求心・粘り強いなどの非認知的能力が今注目されており、それは人口減少等の様々な変化が加速している中で、柔軟に環境に適応し、学び続け、課題を解決する力が求められてきているからであると説明された。

講演

15:00~16:55
《テーマ》非認知能力について～家庭養育への関係を基に～
〈講師〉(株)ベネッセホールディングス
ベネッセ教育総合研究所次世代育成研究室
室長 高岡純子氏



1. 非認知的知能力～海外の研究結果～

なぜ、非認知的能力(社会情動的スキル)が注目されているのか。背景として、人口減少が進み、社会が変化しているため、私達が身につけている知識だけでは、その変化についていけない。21世紀に通用するスキルは、コンテンシー(複雑な変化に対応できる力)で知識や技術の積み重ねでなく、意欲・協調性といった情動的な側面が大切であり、このことが非認知的スキルである。就学前教育の重要性は、ジェームス・ヘックマン博士の1960年代から40年間の

- ①非認知的能力は、将来成人になってからも効いてくる力
- ②非認知的能力は、目標を達成する力・他人と協同する力・情動をコントロールする力
- ③非認知的能力は、敏感期がありもっともこの力が伸びるのが幼児期である。

2. 日本の横断的結果～ベネッセ教育総研調査～

- ・3歳から小1までの調査で明らかになったこと
 - ①3歳児における基本的な生活習慣の自立がその後の学びに向かう力になる。
 - ②幼児の生活習慣、非認知的スキル、認知的スキルの育成には、保護者の養育態度が影響する。
 - ③小学校以降の学習の土台になる認知的スキルは、その前提に非認知的スキルの育ちがある。
 - ④4歳～5歳にかけての変化では、親子の知的なやりとり遊びをよくする方が、5歳児の学びに向かう力が強い。
- 学びに向かう力とは情動的スキルであり(非認知的スキル)その縦断的研究することが重要である。小学校以降の学習や生活に必要な土台となる力は①生活習慣②文字・数・思考(認知的スキル)③学びに向かう力の3つの軸である。さらに学びに向かう力を5つの柱(①好奇心②協調性③頑張る力④自己統制⑤自己主張)がどう変化していくか研究する。学びに向かう力は小学校以降の教育改革とも関連する。教師からの一方的な指導ではなく、子どもが主体的に課題を見つけて解決していくアクティブ・ラーニングが積極的に導入されようとしている。大学入試も、2020年に多様な問題解決力と多様な能力を測定する方法が取り入れられる。

3. 認知非認知能力の変化

- 保護者の働きかけによって、まず非認知的能力が伸び、さらに認知的能力が伸びる。認知的能力の土台には非認知的能力がある。
- 本調査の結果から
- ①幼児期の教育が土台となり、認知的スキルが育ち小学校以降の教育にスムーズに接続する観点からも幼児教育に投資をする必要がある。
 - ②保護者の養育態度を上手く引き出していく必要がある、そのためには園から情報を提供していく必要がある。非認知能力は、目に見えにくい力なのでどのように理解してもらうか課題である。
 - ③全ての乳幼児に質の高い教育を行うためにも、あらたな力の研修や情報提供をしていく必要がある。
 - ④日本は海外に比べ遅れている。日本の認知・非認知的スキルについての研究の蓄積が必要

お知らせ

- 保育総合研究会、今後の予定をお知らせいたします。
- 1月19日 ……役員会 アルカディア市ヶ谷
- 2月15日～2月16日 ……年次大会 アルカディア市ヶ谷
- 2月16日 ……午後 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領サポートブック 研修会
- 2月23日～2月24日 ……JAMEE'S研修会 アイビーホール青学会館



平成26年度会計収支決算書

(収入の部)		(単位 円)		
科目	予算額	決算額	比較増減	備考
会費収入	1,940,000	1,910,000	30,000	会費20,000×94 10,000×1 入会金10,000×2
事業費収入	2,401,000	3,915,741	-1,514,741	
・定例会等参加費	(1,500,000)	(1,624,000)	(-124,000)	総会・定例会4回・年次大会他
・原稿執筆料	(900,000)	(2,291,741)	-1,391,741	プリプリ、保育サポート印税
・冊子販売料	(1,000)	0	(1,000)	
寄付金収入	1,000	10,000	-9,000	
雑収入	2,000	450,984	-448,984	利息、世界文化社助成金450,000を含む
繰越金収入	5,998,716	5,998,716	0	
合計	10,342,716	12,285,441	-1,942,725	

(支出の部)		(単位 円)		
科目	予算額	決算額	比較増減	備考
会議費	300,000	221,191	78,809	役員会、監事会室料・弁当代他
事業運営費	2,600,000	2,341,924	258,076	総会・定例会・年次大会、懇親会、保育科学等
研究活動費	300,000	300,000	0	三部会各10万
通信費	150,000	109,907	40,093	切手・宅配・送金料
委託費	120,000	120,000	0	HP管理料・事務局経費
印刷製本費	200,000	188,058	11,942	保育科学冊子、広報誌印刷代等
備品消耗品費	100,000	0	100,000	
旅費	200,000	100,490	99,510	打合せ旅費
雑費	100,000	52,824	47,176	慶弔費
特別会計繰出金	1,000	3,000,000	-2,999,000	
予備費	5,871,716	428,198	5,443,518	保育サポートブック献本、特別会計不足金
合計	9,942,716	6,862,592	3,080,124	

[一般会計]収入総額(12,285,441円)－支出総額(6,862,592円) 差引残高5,422,849円
 ※環太平洋567,783+欧州視察費2,840,000 当会負担合計3,407,783円
 (負担総額3,407,783円)－(特別会計取崩金3,000,000)＝差引不足額407,783円(予備費処理を含む)

平成26年度会計特別会計積立決算書

(収入の部)		(単位 円)		
科目	予算額	決算額	比較増減	備考
積立金収入	1,000	3,000,000	-2,999,000	
雑収入	1,000	1,696	-696	
繰越金収入	8,504,940	8,504,940	0	
合計	8,506,940	11,506,636	-2,999,696	

(支出の部)		(単位 円)		
科目	予算額	決算額	比較増減	備考
取崩金支出	4,000,000	3,000,000	1,000,000	環太平洋、欧州視察負担金
雑支出	1,000	0	1,000	
次期繰越金	4,505,940	8,506,636	-4,000,696	
合計	8,506,940	11,506,636	-2,999,696	

[特別会計]収入総額(11,506,636円)－支出総額(次期繰越金)(11,506,636円) 差引残高0円

平成26年度保育科学研究委託事業決算書

(収入の部)		(単位 円)		
科目	予算額	決算額	比較増減	備考
委託事業費収入	500,000	500,000	0	日本保育協会
雑収入	1,000	0	1,000	
合計	501,000	500,000	1,000	

(支出の部)		(単位 円)		
科目	予算額	決算額	比較増減	備考
旅費	320,000	320,000	0	
会場借料	50,000	54,060	-4,060	
消耗品費	10,000	45,360	-35,360	
印刷費	10,000	15,743	-5,743	
通信運搬費	5,000	21,254	-16,254	
会議費	50,000	43,583	6,417	
役員費	50,000	0	50,000	
雑費	6,000	0	6,000	
合計	501,000	500,000	1,000	

[委託事業会計]収入総額(500,000円)－支出総額(500,000円) 差引残高0円

2. 平成27年度事業計画(案)

国は子ども・子育て支援新システムを本年4月からスタートし、保育所・認定こども園・幼稚園(私学助成を除く)は内閣府に一本化された施設型給付に変わり、幼稚園、保育所制度の創設以来の大きな転換となりました。一方、施設の経営基盤である社会福祉法人のあり方について、社会保障審議会等で議論がなされ、社会福祉法人改革法案が国会に提出されました。このように保育現場、経営基盤の社会福祉法人を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。

保育現場では保育所又は認定こども園のいずれかの事業形態を選択してサービス提供、しかし、移行について公定価格等詳細情報の遅れなどから移行の判断に混乱もあるようです。又、保育士(又は保育教諭)等の人材不足がある中で、施設型給付には職員配置が求められ、更に地域型保育における延長・一時・子育て支援等のサービス提供にも人材が必要とされています。社会状況の変化と共に新システムがスタート、待機児童、人口減少等の地域状況によって、支援の方法、子どもの成長発達の保障の在り方が問われてきます。

これからの保育の在り方について研究事業を実施、研修会を通じて会員の情報の共有化、広く保育園・幼稚園・認定こども園、一般にも情報発信して質の向上を目指して事業展開するものです。

1. 事業

- ①定例会の開催
- ②年次大会の開催
- ③部会の開催(保育内容部会・人材部会・子育て支援部会)
- ④広報誌の発行(定例会並びに年次大会の都度)
- ⑤日保協保育界、世界文化社保育プリプリに寄稿して掲載する。
- ⑥その他必要に応じ関係すること
 - ・保育科学研究事業(日本保育協会委託事業)
 - ・環太平洋乳幼児教育学会派遣(シドニー・H27.7.24～7.26)
 - ・教育保育要領サポートブック研修
 - ・第5回学術会議発表(全国町村議員会館H27.9/4～/5)
 - ・次世代(JAMEE)研修会

2. 会 議

- ①総会の開催
- ②役員会・監事会の開催

3. 事業日程内容

年 月	事 業 内 容	備 考
平成27年4月	・第1回保育科学研究委員会	・名古屋(4/21)
5月	・役員会 ・監事会	・東京(5/20)
6月	・定期総会 ・第51回定例会 ・次世代研修会	・東京(6/10~11)
7月	・第2回保育科学研究委員会 ・教育保育サポートブック研修会	・熊本市(7/11)
8月	・環太平洋乳幼児教育学会ポスター発表	・オーストラリア シドニー(7/24~26)
9月	・第52回定例会	・新潟(8/18)
10月	・第5回学術会議発表 ・第53回定例会	・東京 全国町村議員会館(9/4~5)
12月	・次世代研修会 ・第3回保育科学研究委員会	
平成28年2月	・年次大会	
3月	・役員会	

※ 尚、ゲスト講師はその都度、行政・報道関係・医師・教育関係者等を迎える予定である。

平成27年度会計収支予算書(案)

(収入の部) (単位 円)

科 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
会 費 収 入	1,940,000	1,900,000	-40,000	20,000×94 10,000×2
事 業 費 収 入	2,401,000	2,401,000	0	
・定例会等参加費	(1,500,000)	(1,500,000)	0	定例会・年次大会参加費等
・原稿執筆料	(900,000)	(900,000)	0	保育プリプリ、印税等
・冊子販売料	(1,000)	(1,000)	0	保育サポートブック等
寄 付 金 収 入	1,000	1,000	0	
雑 収 入	2,000	1,000	-1,000	利息等
繰 越 金 収 入	5,598,716	5,422,849	-175,867	
合 計	9,942,716	9,725,849	-216,867	

(支出の部)

科 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
会 議 費	300,000	300,000	0	役員会・会議室料、弁当代他
事 業 運 営 費	2,600,000	2,600,000	0	定例会・年次大会・懇親会費、保育科学等
研 究 活 動 費	300,000	400,000	100,000	部会活動、次世代
通 信 費	150,000	150,000	0	送料他
委 託 費	120,000	120,000	0	HP管理料・事務局経費
印 刷 製 本 費	200,000	600,000	400,000	広報誌印刷、環太平洋ポスター等
備 品・消 耗 品 費	100,000	100,000	0	封筒代他
旅 費	200,000	600,000	400,000	派遣旅費
雑 費	100,000	100,000	0	慶弔費他
特別会計繰出金	1,000	1,000	0	
予 備 費	5,871,716	4,754,848	-1,116,868	環太平洋乳幼児教育学会等
合 計	9,942,716	9,725,848	-216,868	

(科目間の流用を認めるものとする。)

平成27年度特別会計予算書(案)

(収入の部) (単位 円)

科 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
積 立 金 収 入	1,000	1,000	0	
雑 収 入	1,000	1,000	0	
繰 越 金 収 入	8,504,940	8,506,636	1,696	
合 計	8,506,940	8,508,636	1,696	

(支出の部)

科 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
取 崩 金 支 出	4,000,000	1,000	-3,999,000	海外研修助成等
雑 支 出	1,000	1,000	0	
次 期 繰 越 金	4,505,940	8,506,636	4,000,696	
合 計	8,506,940	8,508,636	1,696	

平成27年度保育科学研究所委託事業予算書(案)

(収入の部) (単位 円)

科 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
委 託 事 業 費 収 入	500,000	500,000	0	日保協委託費
雑 収 入	1,000	1,000	0	
合 計	501,000	501,000	0	

(支出の部)

科 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
旅 費	300,000	320,000	20,000	旅費助成等
会 場 借 料	70,000	50,000	-20,000	会場費等
消 耗 品 費	10,000	10,000	0	コピー用紙等
印 刷 費	10,000	10,000	0	資料印刷費等
通 信 運 搬 費	5,000	5,000	0	切手代等
会 議 費	70,000	50,000	-20,000	茶菓、昼食代等
役 務 費	5,000	50,000	45,000	会議録作成等
雑 費	31,000	6,000	-25,000	
合 計	501,000	501,000	0	



第51回 定例会(14:30~17:3

〈報告〉平成26年度保育科学研究報告

(報告者) 当会会長 梶沢 幸苗

平成26年8月8日、インドネシア・バリ島で行われた環太平洋乳幼児学会ポスター発表の報が行われた。



〈講演〉テーマ「社会性の発達への遥藍としてのアタッチメント」

(講師) 東京大学大学院教育学研究科 教授 遠藤 利彦氏



<世界における長期継続研究の実際>

・アタッチメント→いかに養育者とのかかわりがあるか研究→10年後20年後その子どもたちが他の人とどのように関わっていくか

・自分が愛されているという感覚をもっている子どもは、基本的な信頼関係ができており、少々つらいことがあってもちゃんとした大人になっていく

・ナチュラルエクスペリメント(自然に生じてしまった実験)

実際に悪い環境・条件のもとで育った子どもたちのデータをもとに、何をすればいいのかを研究していく

・教育の投資文化

就学前まで100万かけてもらった子は、大人になったときその15~18%アップでかせぐことができる

経済という観点からみると乳幼児期にお金を使うことが有効

例 黒人の貧困層→IQ80前後のグレーゾーン 遺伝子ではなく、家庭環境によるもの 貧困—シングル—喫煙

その子たちに対して2年間幼稚園に行くのと何もしないで追跡調査を行う

幼稚園に通っている間はIQが伸びるが、引き上げられたからといって幸せにつながらない

IQとは認知的な能力それ以外の非認知的能力(社会性)が大切

社会性など当たり前のことは、家庭だけではなく、ちゃんとした大人とのアタッチメントをとり続けることが大切→貧困層の母親の場合も保育士等を介して地域とつながって生活できるようにしていくことで、その後も地域とかかわることができていく

<「幼児期決定論」の誤謬>

人は、どの時点からやり直しができる力(可塑性)があるが、年齢が上昇するとともに、その可塑性・変化の回復は徐々にへっていく。そのことから幼児期のちゃんとした養育・教育・保育が大切である。

→教育とは早期教育ではなく、家庭外でのアタッチメントを十分にすること(自然な大人とのかかわり)

<社会性こそがヒトの強み>

人間は大人になっても子どもっぽい性質をもっている

本来大人になるということは、一人で生きていくということ→攻撃性が強くなる→猜疑心・警戒心が強くなる→集団生活ができにくくなる

子どもっぽいということは、人を信頼し、じゃれあうことができるということ

子どもの健やかな発達においては、共感・思いやりの気持ちを持ち、ルールを守り、道徳性を身につけさせることが目標である。人の最大の強みが社会性である

<アタッチメントとは何か>

アタッチメントとは、くっつくこと...危険に接し、恐れや不安などのマイナスの感情が生じたとき、いつでも特定の誰かにくっつくたい

その人にくっつくことで「もう大丈夫」という安全であるという感覚をえようとする

内界(心と体の状態全部) 外界(それ以外のもの) ネグレクトなどで外界からの不安になすべがない状態が続くと無力になる

・無差別的社交性 何かの為にくっつく→目的が達成されると執着せずに次の人にうつる→特定のひととの関係が深まっていけない

いつも同じ人が、怖いとき・不安な時にいてくれる、なぐさめてくれるという体験を繰り返すことで子どもは「何があってもこの人なら大丈夫」という見通しをもつ

見通しをもつことで、積極的になる・チャレンジできる、自立的に探索冒険ができる、一人で何かをすることができる子どもになる。栄養をくれる人が、子どもにとって重要なのではない。

人にとって、怖い時にくっつくことが大切なのは、子どもの時だけでなく、生涯必要である。いて当たり前の人がいることが人を支えている 配偶者などとの死別体験をすることが一番

ストレスは精神的だけでなく、体力的にも弱くなる

・アタッチメント理論

安全基地

子どもにとって特別な大人の人を基地として元気に飛び出していける・好奇心が芽生えてくる(触りたい動かしたいなどのいろいろな遊びを体験することで考え、学びにつながる)

<安全感の輪>

マイナス感情になったとき、自らかけこんでなぐさめてもらいたい、燃料補給(元気)をして、また飛び出していくという輪

子どもが成長するということは、この輪が徐々に大きくなっていくということ輪が大きくなるということは、戻る必要がなくなっていくということ→自立性

・基地は見守るというスタンス

子どもに不安な思い、痛い思いをさせまいと、後をついて回ることではない

子どもがマイナス感情をもった時に、自分から何とかしよう(声を出す、自分から動いてくつくと動くことが大切。そのことが感情を立て直すことができる、自分にはできるという自立心、自己肯定感につながる

・感情の調節...くずれた感情をアップさせるには、子どもの中でおきていることに寄り添い、大人がその感情を映し出す最初に十分受け入れられた子は、そのことを当たり前のことと

思い、他の所(保育所など)へ行っても同じようにできる(人を信頼する)